

2014年度 事業報告

社会福祉法人 いのちの電話



2014(平成26)年度 社会福祉法人いのちの電話概況

2015年3月現在

設 立	1971(昭和46)年10月1日開局	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談
法 人 認 可	1973(昭和48)年12月	相 談 員 養 成	医療相談 フリーダイヤル(毎月10日) 年1回公募
組 織	理事10名・監事2名・評議員21名	相 談 員 研 修	継続研修、講座随時
相談員実働数	312名	運 営 費	年間経費:約3,700万円
認定者累計	1,801名	機 関 紙	広報誌「いのちの電話 東京」
受 信 件 数	28,164件(2014年1月~12月) 男 11,462件 女 16,702件	関 連 団 体	一般社団法人 日本いのちの電話連盟 日本自殺予防学会
総受信件数	開局以来累計:1,233,438件		
相 談 時 間	24時間(年中無休)		

2014(平成26)年度 相談の実態とその傾向

電話相談の統計から

2014年の電話相談は28,164件(男性11,462件、女性16,702件)であり、男女比は約4対6と女性からの相談が多いこれまでの傾向に変化は見られなかった。また相談を利用した年代も40代が最も多く、次に50代、30代が続く状況も変わらなかった。相談内容については自身の体調や家族を含む対人関係、就労困難等、複数の問題を抱え、この先の不安や孤独を訴える相談が多く寄せられた。また自殺傾向については16.1%と前年より減少したものの、高い緊張感で危機介入を要する電話も少なくなかった。

※平均通話時間：31分(男性24分、女性35分)

表1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2014年 合計	2013年 合計
10代	295	130	425	584
20代	1,429	1,508	2,937	2,978
30代	2,138	3,065	5,203	5,567
40代	3,062	4,401	7,463	7,194
50代	2,094	3,591	5,685	5,881
60代	882	2,335	3,217	2,864
70代	444	643	1,087	843
不明	1,118	1,029	2,147	2,365
合計	11,462	16,702	28,164	28,276

図1

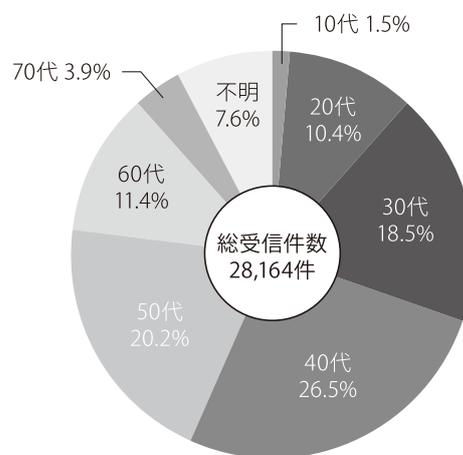
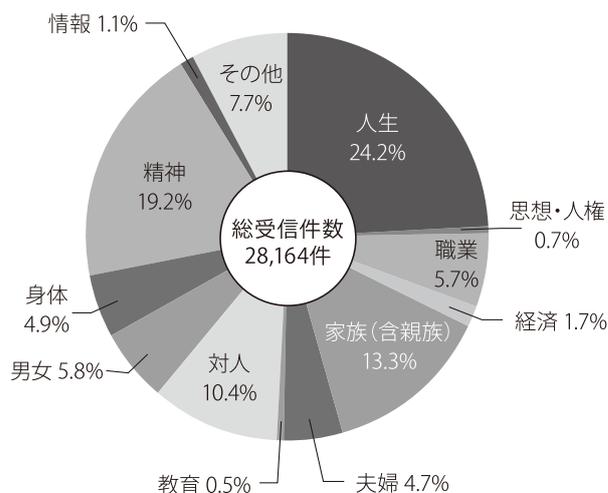


表2 電話相談 問題別件数

	男性	女性	2014年 合計	2013年 合計
人生	2,913	3,894	6,807	6,627
思想・人権	104	90	194	216
職業	882	718	1,600	1,626
経済	193	281	474	410
家族(含親族)	882	2,871	3,753	3,740
夫婦	348	988	1,336	1,510
教育	41	98	139	150
対人	788	2,145	2,933	2,879
男女	693	944	1,637	1,565
身体	505	883	1,388	1,282
精神	2,306	3,115	5,421	5,402
情報	98	206	304	283
その他	1,709	469	2,178	2,586
合計	11,462	16,702	28,164	28,276

図2

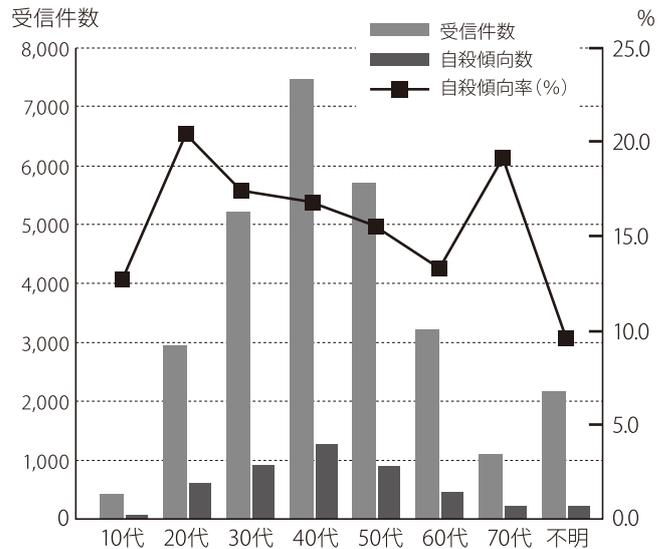


【図3】 電話相談 10年間の自殺傾向率



	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
受信件数	28,589	27,917	27,462	28,881	29,551	28,987	28,377	27,517	28,276	28,164
自殺傾向率 (%)	12.0	11.7	12.7	11.6	10.9	12.1	10.2	18.8	18.8	16.1

【図4】 電話相談 年代別受信件数と自殺傾向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
受信件数	425	2,937	5,203	7,463	5,685	3,217	1,087	2,147
自殺傾向数	54	600	903	1,257	884	428	208	204
自殺傾向率 (%)	12.7	20.4	17.4	16.8	15.5	13.3	19.1	9.5

土曜医療相談

2014年も毎週土曜日、14時から17時の3時間、主にカトリック医師会、キリスト者医科連盟等の医師によって、毎週土曜日午後2時～5時に行われている。

昨年度の相談件数は343件、うち男性65名、女性278名と女性が多く、男女比は1:4(男性19%、女性81%)であった。月毎の平均通話数は約28件である。

科目別では、精神科と内科、心療内科に関する相談が多いが、相談の内容は、総合的、複合的、慢性的な悩みであり、すでに医療機関にかかっている方からの相談が多いという傾向が見られる。

【科目別】

	男性	女性	合計
精神科(心療内科)	43	170	213
内科	12	64	76
外科(整形外科)	9	29	38
婦人科・産婦人科	1	12	12
泌尿器科	0	0	0
皮膚科	0	9	9
耳鼻科	3	2	5
歯科	0	4	4
眼科	0	11	11
小児科	0	0	0
性について	1	3	4
エイズ	0	0	0
健康相談	1	9	10
美容整形	0	0	0
その他	4	15	19
合計	74	328	401

【月別相談件数】

	男性	女性	合計
1月	11	19	30
2月	7	23	30
3月	6	25	31
4月	5	25	30
5月	3	17	20
6月	3	24	27
7月	4	20	24
8月	8	37	45
9月	4	10	14
10月	6	28	34
11月	6	6	33
12月	2	23	25
合計	65	278	343
2013年度			366
2012年度			359

フリーダイヤル

毎月10日、全国のセンターをオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで電話を受けている。通常電話より自殺傾向が高いこと、男性からの相談が多いことが特徴となっている。

	男性	女性	2014年合計
相談件数	495	353	848
自殺志向数	122	128	250
自殺志向率 (%)	24.6	36.3	29.5(平均)
平均通話時間(分)	17分	22分	19分

インターネット相談

当法人が運営する「インターネット相談事業」は、盛岡、仙台、埼玉、奈良、福岡、愛媛、との協働により実施した。相談受付件数は全体で3,194件（男性918件、女性2,276件）、内東京センターで対応した相談は1,066件（男性332件、女性734件）であった。前年の3,416件より減少したものの、自殺傾向率は43.0%と昨年より3.2ポイント上昇した。件数の減少については対応に苦慮する深刻な相談が増え、相談員がより慎重な返信に時間を要した事も原因のひとつと思われる。ネット相談を利用した年代は開設以来20代が最も多く、今年度も10代～30代の若年層が7割以上と傾向に変化は見られなかった。利用者の性別については女性からの相談が7割と昨年より微増した。

図5 インターネット相談年代別

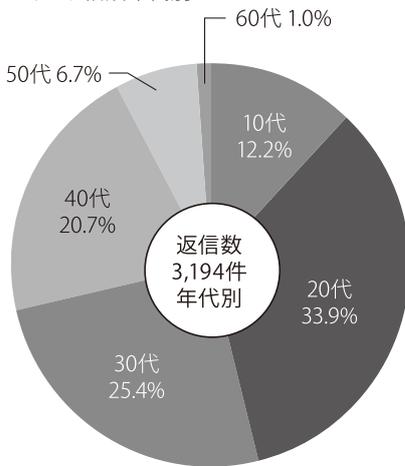


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺傾向比較

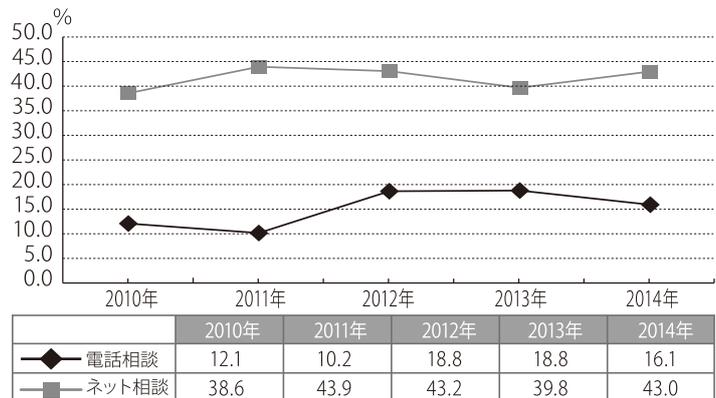


図6 インターネット相談問題別

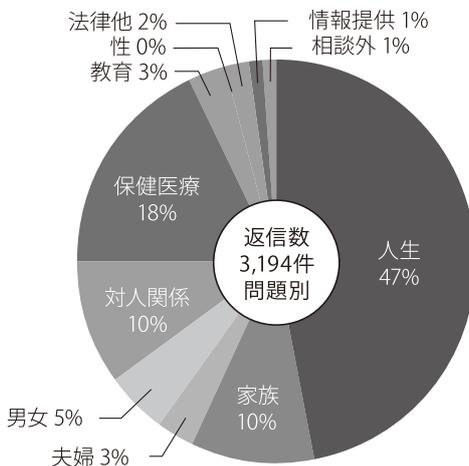
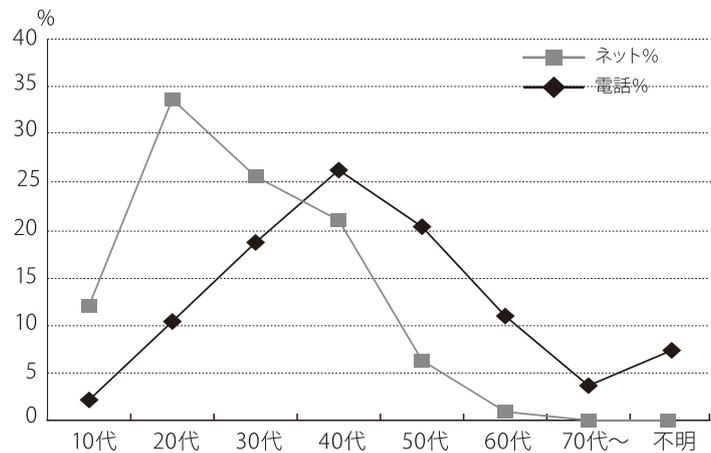


図8 電話相談とネット相談利用者の年代別比較



また当法人では厚生労働省「平成26年度自殺防止対策事業国庫補助」を受け、以下の全国センター事業を行った。

- ・インターネット相談員養成研修 日時：10月11日（土）～12日（日）
開催地：東京 対象：全国センター 受講：13センター 46名
- ・インターネット相談エリア研修会
開催地：仙台（1/11）・福岡（2/8）・東京（2/21）
対象：ネット相談実施センター及びその他全国センター 受講：19センター 117名
- ・ネット相談育成研修
盛岡、仙台、奈良、愛媛、福岡、東京の6センターにて、各4回のスキルアップ研修を行った。



2015(平成27)年度 事業計画・役員

I 基本方針

1. 相談活動の実態に即した相談事業の安定的実施
2. 相談体制の強化及び検討済み事項の実施
3. 組織の整備と運営の適正化
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り

II 具体的活動計画

1. 相談活動の実態に即した相談事業の安定的実施
 - 1) 電話相談 ●電話相談の年中無休24時間体制を維持継続する。
 - 2) インターネット相談 ●インターネットによるメール相談を維持継続するとともにシステムの再構築に向けて取り組む。
 - 3) 土曜医療相談 ●協力医師による毎週土曜日の電話医療相談を継続する。担当者の相談検討会を実施する。
2. 相談体制の強化及び検討済み事項の実施
 - 1) 相談活動の実態分析と組織全体での問題意識の共有
 - 2) 組織の役割と活動内容の再確認
急速に変化しつつある社会の中でのいのちの電話の役割を明確にし、具体的施策の実施に向けて議論する。
 - 3) 電話相談員の募集・養成体制の見直しを引き続き検討する。
 - 4) 電話相談員の養成体制の見直しについて、検討済みの改善点を実施する。
 - 5) 電話相談員のケア体制を継続する。
 - 6) 電話相談員の継続研修の見直しを検討する。
 - 7) 電話相談員の誓約事項の遵守と負担軽減による活動内容の活性化を図る。
3. 組織運営の整備と運営の適正化
 - 1) 長期計画の実施 ①施設の検討 ②事務局体制の改革
 - 2) 組織運営の透明性を確保しつつ、円滑化を図るために、規則等の整備体系化を継続する。
 - 3) 相談員が主体的に組織運営に関わるような体制作りを継続
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
 - 1) 健全な財政を維持するための募金その他の活動
 - 2) 後援会主催のチャリティ行事等の実施への協力
 - 3) 広く理解、支援を得るために、常時積極的な広報活動に取り組む
・広報誌(事業報告、寄付感謝報告を含む)の年2回発行
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り
 - 1) 各種の相談ネットワークとの関係づくり、紹介先の再検討
自殺予防支援ネットワーク(東京都主催)との連携協力
 - 2) 日本いのちの電話連盟及び他のセンター等との連携、協力
 - ①2015年度厚生労働省補助事業自殺防止対策事業参加
●毎月10日 8:00～翌日8:00に実施されるフリーダイヤルへの参加 ●第39回日本自殺予防シンポジウムへの参加
 - ②第33回いのちの電話相談員全国研修会鹿児島大会への参加
 - ③近隣センター情報交換会開催
 - 3) インターネット相談における他センターとの連携協力(相談事業、研修、広報活動等)

役員名簿

任期 2015年1月25日～2017年1月24日

2015年4月24日

理事 計10名			岡村 五十男	(株)S.C プランニング顧問、いのちの電話後援会理事
大瀧 京子	相談員		尾形 婦志子	団体職員
倉本 英彦	精神科医		加藤 泉	相談員
佐合 信子	社会福祉法人いのちの電話事務局長		北川 逸英	杉並聖真ルーテル教会牧師
穴戸 信次郎	相談員		久保 美紀	明治学院大学社会学部教授
清水 康之	NPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表		郡山 千里	世界キリスト教情報・主宰
豊島 まき子	相談員		清水 和良	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会、NPO法人VCA理事
中村 武照	(株)西部日化代表取締役社長、いのちの電話後援会会長		高瀬 幸子	カトリック医師会、産婦人科医師、順天堂大学・東京女子大学非常勤講師、医療相談員
林 義子	宗教法人カトリック煉獄援助修道会		谷口 尋子	社会福祉法人埼玉いのちの電話理事・評議員
樋田 大二郎	青山学院大学教授		中村 清純	医療相談員、水町保険診療所医師
森野 嘉郎	弁護士		日比野 克彦	相談員
監事 計2名			堀 肇	鶴瀬恵みキリスト教会牧師、聖学院大学大学院非常勤講師
佐藤 治隆	弁護士		幕内 英明	相談員
富部 直希	税理士		松浦 郭介	会社員
評議員 計21名			望月 和子	いのちの電話後援会ボランティア
飯島 睦子	元研修委員長		山崎 隆	相談員
石島 武一	社会福祉法人聖ヨハネ会桜町病院名誉院長、日本カトリック医師会名誉会長、医療相談員		矢永 由里子	慶応義塾大学医学部感染制御センター講師、臨床心理士
上村 明子	いのちの電話後援会理事		余語 毅男	医師

後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるために、また会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティバザー、映画会、コンサート、落語会など）の実施、センター内での相談員の便宜を図るために食料品や関連図書、古本、フォトはがきの販売、手作り手芸品の制作販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集を行っています。

2014年度 チャリティ事業報告

- 7月 4日（金）映画会「最強のふたり」（フランス映画）昼・夜2 回上映（銀座ブロッサム）
実話に基づくヒット作品を上映し、いのちの電話にふさわしいと大変好評を得ました。
- 10月27日（土）バザー（東京ルーテルセンター）
毎年、東京ルーテルセンターのご協力をいただき、1階と2階を主会場にバザーを行っています。



2014年度 活動実績

- 映画会収益： 約54万円
- バザー収益： 約100万円
- その他物品の販売

2014年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ200万円寄付

2015年度 チャリティ計画

- 7月 2日（金）映画会「英国王のスピーチ」
14時・19時からの2回上映
場所：銀座ブロッサム
- 10月31日（土）バザー10:30～13:30
場所：東京ルーテルセンター

所在地：社会福祉法人いのちの電話内

後援会理事

任期 2014年4月1日から2016年3月31日

2014年4月1日

理事
計16名

中村 武照
高村 治子
田部 誠
岡内 泰子

岡原 映子
佐々木 撰三
三崎 由美子
渡辺 富子

佐合 信子
上村 明子
岡村 五十男
小澤 格

神田 佳和
八村 悠紀子
柳下 弘
山田 忍

監事
計2名

新井 英明
正野 建樹

ご支援ください

いのちの電話は、相談員の無償の奉仕で支えられていますが、研修費、広報、事務費、借室料など年間約3,700万円の運営費が必要です。その運営費の大部分が皆様からの尊いご寄付に頼っています。

ご寄付は個人、法人ともに税制上に優遇措置があります。

皆様からのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

寄付の
送金先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人 いのちの電話

三菱東京UFJ銀行 神保町支店 普通 1084827

社会福祉法人 いのちの電話



電話相談

▶ **03-3264-4343**



インターネット
相談

▶ **<https://www.inochinodenwa-net.jp/>**

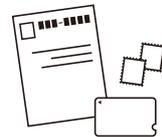


フリーダイヤル

▶ **0120-738-556** 「自殺予防いのちの電話」毎月10日

●未使用ハガキ・未使用切手を送ってください

書き損じハガキや年賀状・暑中見舞いなど、使い道がなくなって家で眠っているハガキや未使用切手はありませんか。私たちの活動に大きな助けとなります。よろしくご協力お願い致します。



社会福祉法人 **いのちの電話**
2014年度事業報告

[発行日] 2015年5月
[発行者] 森野 嘉郎

[事務局] 〒102-0071
飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 [FAX] 03-3264-4949
[H P] <http://www.indt.jp/>

*この報告書は共同募金配分金により発行しております。